

1949年 11月 13日

夏原 了系

小生 最近 貴刊 とくして 貴誌の 研究 により 信じた事のこと  
 がある。 加同合せと 結合 する 過程 について 考  
 へて 述べ たい。

小生の 論文 中 (17) (60) 式 と 貴誌 掲載 した  
 おたすね 式 と 比較 すると 経験 式 として 理論 式  
 ではない。 たい 人 工 的 現象 に対して 考へて  
 適用 する ので 定用 には 役 立ち ます (と 334  
 今後 よく 検討 する 必要 がある こと)

御 返 答 別 刷 有 難 じ こと 申 上 げ ます。 御 研究 の 進展 と  
 祈 願 申 上 げ ます。

了 系 氏 へ

\*

(17), (60) 式中の

$$S_1 \frac{S}{S - S_1}$$

は  $S_0$  の一つの推定値である。未知の  $S_0$  を計量的に推定するために、 $S_2$  (2個体の種数),  $S_3$  (3個体の種数) などを用い、採集の方法と試み回数 (たいてい  $\frac{1}{q_2}$  程度) により ( $S_2, S_3$  を使わない場合) に比較的よく適合するものと上記  $S_1 \frac{S}{S - S_1}$  と採用することにした。 (17) ではこれを乗数補正に用いる。また  $Q$  の値は  $S_1$  の推定値と (60) 式とを算出したことである。

上記の諸式は今回用いた人工群集諸型から、7270に適用してその適否を検討したものである。しかし全然  $q$  の type の自然群集に適用可能なものは見当たらない可能性もあることはいえる。この点今後の検討の課題にしよう。